平成28年度教科リーダー養成・活用事業　研修成果報告

「目標に向かって主体的に学ぶ生徒を育成するための挑戦」

島根県立益田高等学校
教諭　山　根　幸　久

１．テーマ設定の理由

本校に勤務して７年目となるが、年を重ねる毎にスローラーナーが多く入学してくる傾向が強まっている実感がある。また英語に関しては、苦手意識を持つ生徒が多い。主な研究の対象とした１年生のクラスは、入学時のスタディサポートで「英語が苦手」と解答した生徒は約３０％、学力到達ゾーンはC2という状況だった。

また、その一方で進学を希望する生徒は多く、進学校としての地域からの期待も大きい。過去６年間、本校で勤務させていただいたことをもとに、本校における３年間の指導の流れを表【別添資料　１】にまとめた。この表の妥当性についても検証したいと考えていた。

主体的に学ぶ生徒を育てながら、一方で進学するために必要な力を確保できるような指導をするためにはどのようにすればよいか、考える必要があった。また、次期学習指導要領に記載されている「主体的な学び」や、ICT の活用についても実践していくべき時期であると考えていた。そこで、今回のリーダー教員養成事業を機に、様々なことに取り組んでみようと思った。

２．調査

どのようにしたら、主体的に学ぶ生徒を育てられるかという課題について考えている際に、２冊の本の記載に注目した。

「日本のような快適な社会に住んでいる人が、"わざわざ苦労する""不快な思いをしそうなことに挑戦する"というのは難しいことです。このジレンマは簡単に解決できるものではないと思います。」

これは、ハーバード大学のジェフリー・ジョーンズ教授の分析である。現代の高校生の学習意欲が低下している原因を端的に示しているものであると感じた。

「私たちは先のことを楽観視してしまうせいで、やるべきことがあってもあとでやろうと思うだけでなく、あとになればかんたんにできると思いがちです。」

これは、スタンフォード大学のケリー・マクゴニカル教授の分析である。「明日から頑張ります」という生徒に今まで何度もだまされてきたことを思い出した。これらの２つの言葉は、現在の生徒の実態をよく表していると思う。快適な生活ができ、明日を楽観視する傾向のある生徒達に、どのように主体的に学ばせれば良いか悩んでいる際に、島根大学千代西尾祐司教授の講義を聴講し、「知識構成型ジグソー法」について学んだ。この手法を用いれば、主体的に学ぶことができ、かつ学んだ内容を長期にわたり定着させることがで

きる。この手法を用いれば、生徒の学習意欲向上につながるものと考えた。そこで、東京大学と連携して「知識構成型ジグソー法」を研究している埼玉県へ視察に行くことにした。以下は、視察先の様子である。

１）埼玉県立浦和第一女子高等学校

・平成２８年度入試結果　早稲田大学７１名、慶應義塾大学１６名、東京大学推薦合格

・参観授業　２年生コミュニケーション英語Ⅱ【別添資料　２】

・授業内容

女性の社会進出についてのインターネット上の記事を読み、それをもとに女性の社会進出は社会に有益であるということについてのスピーチを行うというものであった。インターネット上の記事内容については以下の通りである。

〇発展途上国において、女性の社会進出を阻止しているものは何か。

〇女性の社会進出を促すために必要なものは何か。

〇女性の能力は男性と同等であり、どうすれば社会で活かせるのか。

これらの記事を読み、グループ毎に意見をまとめて発表していた。学力の高い生徒も多く、見事に発表していた。教師の指示もほとんど必要なく、生徒が主体的に活動している姿に驚いた。

２）埼玉県立北本高等学校

・平成２８年度進路実績　進学１１５名、就職５２名、その他３２名

・参観授業　１年生コミュニケーション英語Ⅰ【別添資料　３】

・授業内容

不動産物件についての文章を読み、不動産屋になったつもりで顧客にふさわしい物件を選ぶという内容の授業であった。授業開始のチャイムが鳴っても生徒がなかなか座らないという状況であったが、１度課題が与えられると、英語を苦手としているような生徒であっても辞書を引きながら英文を読解し、グループ活動に主体的に参加していた。英語を苦手とするような生徒であっても、主体的に学んでおり、「知識構成型ジグソー法」のすばらしさを実感した。

このような様子を目の当たりにし、「知識構成型ジグソー法」を実践して、主体的に学ぶ生徒を育てていきたいと思う一方、それを早期に実行しなければならないとも感じていた。１つの理由は、千代西尾教授の講義において、これからの社会は AI が進化することにより人間の仕事が奪われる時代になるため、AI ができないようなことができる人間を育てる必要があることを伺ったことである。もう一つは、「河合塾教育研究フォーラム２０１６」で知った、「学校と社会をつなぐ調査」の結果であった。以下に詳細を示す。

「京都大学×河合塾　学校と社会をつなぐ調査」

〇２０１３年度の高校２年生を対象として、高等教育機関への進学、さらに社会人へと至

るおよそ１０年間を追跡するパネル調査
○学校での学習や日常生活の過ごし方が、大学での学び、さらに社会に出てからの仕事や人生の過ごし方にどのように影響を及ぼすかを検討

「学校と社会をつなぐ調査　まとめ」
○高校２年時の学習・生活タイプは、大学１年次の学習、資質・能力に大きな影響を与えている。
○大学１年時の資質・能力は、高校２年時の資質・能力がそのまま影響している。
○他に、大学１年時の学習、資質・能力に影響を与えているのは、大学１年時の「主体的な学習態度」である。
○高校２年時の「キャリア意識」が大学１年時の「２つのライフ（人生・生活）」に影響を与え、大学１年時の「２つのライフ」は「主体的な学習態度」に影響を与えている。

＜結論＞
高校時代に、資質・能力を育成し、キャリア意識を醸成することが、大学での充実した学び・生活につながる。

高校生を指導する教員の役割は大きいと実感した。「知識構成型ジグソー法」を、どのように授業に取り入れていけば良いかを考えていた時に、鳥取県立八頭高等学校の福島卓也先生の授業を参観することができた。私が担当しているクラスの生徒に対し、授業実践をしていただいた。内容は以下の通りである。

○授業内容　１年生コミュニケーション英語Ⅰ【別添資料　４】
３つのグループがそれぞれライオン、キリン、クジラの睡眠について書いてある文章を読み、グループ内で内容を確認する。その後、ライオン、キリン、クジラの各グループ１名ずつで構成されるグループを編成し、互いにインタビューをする。

特にスローラーナーにとっては、内容的にも難しいものであったが、それにもかかわらず主体的に学んでいた。普段見ている生徒の様子とは違う姿を見ることができ、この形を自分でも実践してみたいと改めて思った。生徒の活動をする際に、スモールステップを踏んでいくことの大切さを感じたのが、エキスパート教員　古川志穂先生の授業であった。

○授業内容　２年生コミュニケーション英語Ⅱ【別添資料　５】
ディベートを最終的にさせるための、指導過程を見学させていただいた。まずは、日本語でトピックについての意見を立てさせ、日本語によるディベートをさせる。その後、英語でトピックについての意見を立てさせ、互いに発表させる。発表を聞いている生徒は、発表内容を英語で書き取り、その後それに対する意見を考えさせるといった形で、ディベ

ートにおける一つ一つの場面を丁寧に指導されていた。生徒に意欲的に学習させるためには、ハードルを一気に上げないような工夫が必要であると感じた。

３．授業実践

これらの視察等をもとに、実際に「知識構成型ジクソー法」の手法を活用した授業を展開した。いずれの授業においても授業内に生徒が主体的に取り組む姿を見ることができた。いくつかの授業実践について記載する。

１）１学期研究授業【別添資料　６】

授業内容は別添の通りである。クラス内で発表をさせたことは、生徒の意欲向上につながったが、どのグループも同じ内容を発表することになり、退屈になったことが課題となった。

２）小笠原諸島についての情報収集【別添資料　７】

読解における活動に取り組んだ。3 つのグループがそれぞれ別々の文章を読み、その後に小笠原諸島について記載されている表をまとめる活動をした。全ての生徒が意欲的に英文を読もうとしており、主体的な学びを見ることができた。各グループでまとめた内容も、正確なものであった。しかし、結果的に各生徒は本文全体の 3 分の 1 しか読んでいないことが課題となった。

３）風呂敷についての情報収集および発表【別添資料　８】

１）と２）を合わせた形の授業実践をした。風呂敷について書かれた本文全体を配り、3 つのグループにそれぞれ異なった質問を与えた。各グループ 1 名ずつで構成されたグループで、互いに答えを共有した後、本文を読んだ感想を書かせた。最後に、グループで本文の内容と感想を発表させた。１）と２）の反省点を改善するための取り組みであった。しかし、発表までの準備に時間がかかり、参観者からは、「家庭学習として課すべき所を授業でやる必要はないのではないか」という意見をもらった。

４）聖パトリックデーについての読解および発表【別添資料　９】

授業内容については、別添の通りである。1 コマ 45 分の中で、4 技能を全て用いた授業展開に挑戦してみようと思ったが、時間が足りず計画通りに終わらなかった。参加者の意見として、「目標（Can-do リスト）をきちんと見据えているのか」という指摘があり、新たな課題として浮かび上がった。

これらの授業を通して得られた成果と課題を、自己効力測定尺度の調査結果と照らし合わせて検証したい。

４．自己効力測定尺度の調査【別添資料　１０】から伺える成果と課題

自己効力測定尺度の調査を２回（１回目：７月１４日、２回目：３月９日）に行った。調査結果としては、２回目の方がすべての項目について伸びていた。特に気になる点について項目を列挙しながら、今年度の成果と課題について検討したい。

○その気になれば、授業で先生の言うことをとても注意して聞くことができます。(+0.70)
○私は、授業で何を学習しているのかわかります。(+0.50)

この２項目については、特に数値の伸びが大きかった２点となる。私は、これらを「知識構成型ジグソー法」の成果であると考えている。このスタイルの授業をする際は、授業の流れを説明してから授業をしなければならないし、生徒も教員の話を集中して聞いていないと授業について行けず、他のグループメンバーに迷惑をかけることになる。そのため、授業についていくために教員の話をしっかりと聞こうとしたのではないかと考えられる。授業に参加してくれるため、クラス内が活発になったという効果もあった。

○私が先生に何か聞きたいとき、いつでも先生は答えてくれます。(+0.68)

「知識構成型ジグソー法」においては、グループ活動中に教員があまり討議に口出しをしてはいけないことになっているが、特にスローラーナーを中心に、質問に答えてあげないと次に進まない状況が、現実問題として浮上した。そのため机間巡視をし、質問にも答えるようにした。その結果、生徒にとっても質問をしやすい環境が提供できたのではないかと考えられる。主観的な印象として、授業後に質問してくる生徒が増えた感じがしている。

○成績が悪いとき、私は何がダメなのかわかります。(+0.53)
○私は、勉強の仕方がわかっています。(+0.23)
○成績が悪いときは、私は必ず予習や復習をしています。(+0.18)

この３点の結果が、今後の課題であると考えている。自分の成績についての分析ができているが、それを打開するためにどのような方策をとれば良いか、わかっていない。その結果、予習や復習につながらず、家庭学習につながらないと考えられる。実際、「どのように勉強した方が良いのかわからない。」と質問してくる生徒も見られた。また、学習してもすぐに成果につながらないからどうして良いのかわからない生徒もいたようである。学習の仕方についてより具体的に説明し、その手法を授業内で実践させ、成果を実感させるような展開をしていく必要があるのではないかと感じた。このような課題から、今後については各授業内における目標を具体的に明示し、１時間の授業で達成感を得られるような授業実践をしていきたい。

５．研修内容

日　程	内　容	会　場
６月１３日（月）	山口高校での授業見学	山口高校
６月２１日（火）	研究授業	益田高校
６月２８日（火）	リーダー教員センター研修会	島根県教育センター
７月１４日（木）	自己効力測定尺度の調査	益田高校
７月１５日（金）	鳥取県立八頭高校福島先生の授業見学	益田高校
７月２７日（水）	拠点校研修会への参加	出雲農林高校
９月 12～13 日	センター研修会	島根県教育センター
１０月１４日（金）	山口高校での授業見学	山口高校
１０月２０日（木）	日原中学校吉松先生授業参観	日原中学校
１１月４日（金）	公開授業（総社高校　高野先生参観）	益田高校
１１月７日（月）～８日（火）	県外先進校視察	浦和第一女子高校 北本高校
１１月１１日（金）	全英連参加	山口市民会館
１１月１４日（月）	公開授業	益田高校
１１月２２日（火）	河合塾教育研究フォーラム	河合塾広島校
１２月　７日（水）	拠点校中間報告会	出雲農林高校
１２月　９日（金）	教科リーダー中間報告会	益田高校
２月　７日（火）	平田高校奥野先生の授業見学	松江南高校
２月１３日（月）	益田高校富田先生（国語）の授業見学	山口高校
３月　９日（木）	自己効力測定尺度の調査	益田高校
３月１５日（水）	浜田商業高校古川先生の授業見学・研究授業	浜田商業高校
３月１７日（金）	研修成果報告書の提出	

６．最後に

３月１５日に、浜田商業高校古川先生の授業参観をした後、１年生に対して授業を行った。【別添資料　１１】内容は、本校１年生が用いている題材を、「知識構成型ジグソー法」で授業をした。私自身、専門高校での勤務経験がないため、人生初の専門高校での授業となった。未知の領域への挑戦であったが、学ぶことは多く、「もっとこんな授業がしたい」と授業改善の意欲が湧いてきた。生徒に主体的に学ばせるために、私自身も主体的に学び続けていきたい。

＜参考文献＞

佐藤知恵（2016）「ハーバードで一番人気の国・日本　なぜ世界最高の知性はこの国に魅了されるのか」 PHP 研究所

ケリー・マクゴニカル（神崎朗子　訳）（2015）「スタンフォードの自分を変える教室」大和書房

【別添資料　6】

第１学年外国語（英語）科学習指導案

平成28年6月21日（火）6限　1年4組教室

島根県立益田高等学校
教諭　山　根　幸　久

1　単元名

Lesson 3　Miyazato Ai – Her Challenge for Her Dream
Power On Communication English　I　（東京書籍）

2　単元の目標

・人物についての説明を聞いたり読んだりして、概要や要点をとらえ、内容を他者に伝えることができる。

3　単元の評価規準

・宮里藍選手の人生について関心を持ち、生い立ちについて意欲的に聞いたり読んだりしている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）－①
・間違いを恐れずに、積極的に宮里藍選手の生い立ちについて説明しようとしている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）－②
・宮里藍選手の生い立ちについてワークシートを使いながら説明することができる。（外国語表現の能力）－③
・宮里藍選手の生い立ちについて聞いたり読んだりしたことを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。（外国語理解の能力）－□
・宮里藍選手の生い立ちについて理解している。（言語や文化についての知識・理解）－⑤

○Can-doリストとの関連

・読んだ英文の内容を、簡単に伝えられる。（話すこと）
・５文程度の文章を聞き取り、その内容を理解できる。（聞くこと）
・１６００語レベルの英文を読み、その内容を理解することができる。（読むこと）

4　学習の基盤

（教材観）

プロゴルファーの宮里藍選手が２００９年にアメリカツアーで優勝するまでの人生についての英文である。宮里藍選手は小さい頃からゴルフ漬けの毎日であったと想像するが、実はそれだけではなく、彼女はプロゴルファー、とりわけ世界で活躍するプロゴルファーになるため、中学時代は勉強やバスケットボール部の活動も頑張り、高校時代は英語を熱心に勉強した。そして、アメリカツアーに参戦してすぐに優勝できたわけではなく、４年間も優勝できずに苦しんだ。その間、家族やコーチに助けられながら２００９年にアメリカツアーで初優勝できた。このような宮里藍選手の経験について学び、生徒が自己実現のためにどうすればよいか考えさせるきっかけとしたい。

（生徒観）

（指導観）

宮里藍選手の経験が、時系列に記述してあり、年代毎に内容をまとめて捉えさせたい。また、理解した内容を年代毎に内容を説明できるようにさせたい。教職経験１１年目研修のテーマの１つである、「思考力・判断力・表現力等を育む授業」をするために、宮里藍選手の経験について、ただ本文を暗唱させるのではなく、自分の言葉を用いながら表現させたい。また、表現をするためには音読活動が必要になるため、家庭で音読をしっかりとさせるきっかけとしたい。また定期試験直前という時期でもあるので、表現活動をするために生徒に英文を何度も読ませ、試験勉強の一環とさせたい。

５　指導と評価の計画

時間	内容	評価内容
１時間目	・新出単語の導入 ・本文のリスニング	①、④
２時間目	・本文のリスニング ・本文読解及び概要把握	①、④
３時間目	・本文の精読	①
４時間目	・本文の精読	①
５時間目	・文法、表現事項の確認 ・表現活動の準備	②
６時間目 （本時）	・表現活動の準備 ・表現活動	②、③
７時間目	・表現活動 ・表現活動についてのまとめ	②、③
定期試験	本文についての読解問題	⑤

６　本時の学習

（１）本時のねらい

・宮里藍選手の生い立ちについて、意欲的に説明しようとしている。－①

・宮里藍選手の生い立ちについて、ワークシートを用いながら説明することができる。－②

（２）資料

・内容説明のためのワークシート３種類（生徒用、提示用）

・スラッシュリーディング用ワークシート２種類

（３）本時の展開

学習活動と予想される生徒の反応（時間）	教師の支援	評価（評価方法）
○個人での練習（５） ・発音を間違える。	・発音を個別に修正する。	
○同じ部分を説明する生徒同士で３人組を作り、互いに発表し合う。他の生徒の発表においてよい部分を自分のものにする。（１０） ・自分の発表について、修正を加えようとしない。	・発表の質を高めるための助言をする。	
○隣同士で３人組を作り、宮里藍選手の経験について教科書本文の内容を協力して説明する。（１０） ・他のグループより早く活動が終わってしまう。	・個人で練習するように促す。	①（観察）
○その場で選んだ３人をクラスの前で表現活動をさせる。（２０） ・緊張して話す内容を忘れてしまう。	・身振りなどを用いて、話す内容を思い出させる。	②（観察）

（４）本時の評価

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への手立て
・宮里藍選手の生い立ちについて、意欲的に説明しようとしている。	・ワークシートを複数回指差したり、身振りを用いながら宮里藍選手の生い立ちについて語っている。	・ワークシートを数回指差したり、身振りを用いながら宮里藍選手の生い立ちについて語っている。	・ワークシートを用いる機会を具体的に指示する。
・宮里藍選手の生い立ちについて、ワークシートを用いながら説明することができる。	・本文の内容についてほぼ説明し、途中で止まることなく説明することができる。	・本文の内容について欠けている部分がややあり、途中で止まることもあるが、最後まで説明することができる。	・発話内容を思い出すヒントを与える。どうしても説明が続けられそうになければ、次回の授業でもう一度取り組ませる。

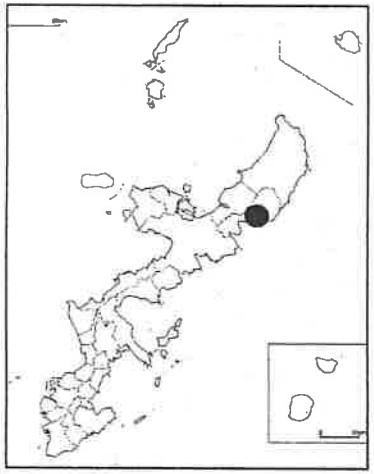
７　研究の観点

・表現活動を上手くするために、生徒一人一人が考えてワークシートを用いたり話す英文を選んだりしているか。

・表現活動を授業中にすることが、家庭における音読練習などの家庭学習の充実につながっているか。

・表現活動によって、生徒の学習意欲が増しているか。

6.19.1985.	1989 4 years old	1988-2000 junior high school	2001-2003 high school
① Where?	started to play golf		tried to talk with foreign students



Masaru

Kiyoshi

Yusaku

② Did she belong to the golf team?

③ Did she study English very hard?

a professional golfer ⇨ an international golfer

experience many things

2003 (18) 2004 (19) 2006 (21)

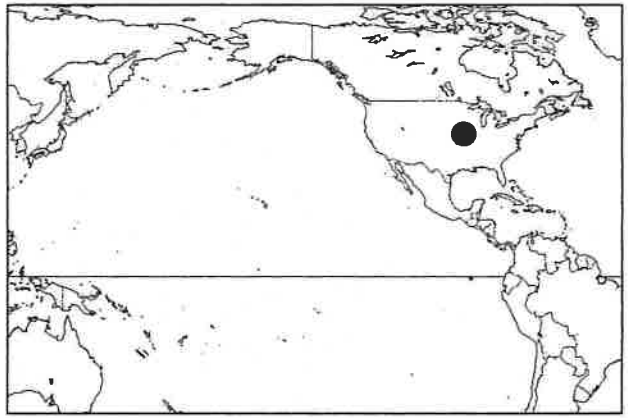
high school

won a professional golf tournament
as an amateur

① Did Miyazato's life change dramatically?

② How much prize money did she win?

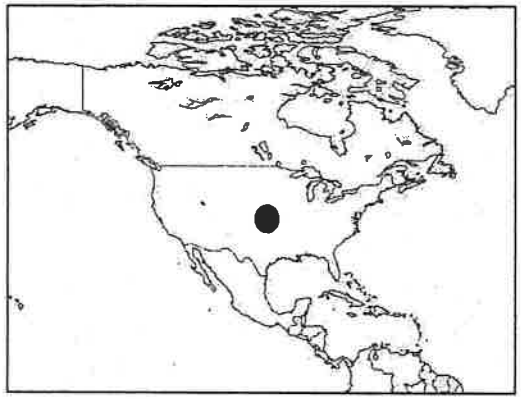
the United States



③ Did Miyazato win a tournament immediately?

2006 (21) July, 2009 (24)

the United States won the first US tournament



encouraged her

her dream of winning overseas

① Did Miyazato ask some coaches for advice?

② What did Miyazato say?

③ Did Miyazato's challenge end?

Lesson 3

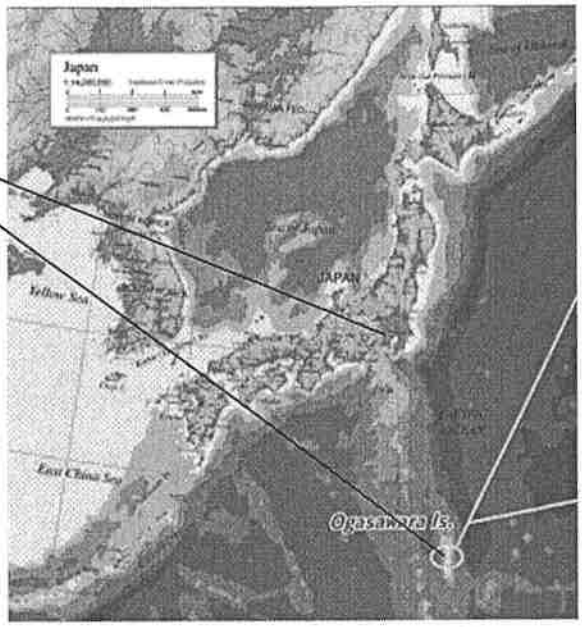
Miyazato Ai—Her Challenge for Her Dream

Miyazato Ai was born in Higashi-son, Okinawa,/	宮里藍は沖縄県東村で生まれ，/
and started to play golf /	ゴルフを始めました /
when she was four years old.//	4歳のときに。//
When she was a junior high school student,/	彼女が中学生のとき，/
she belonged to the basketball team.//	彼女はバスケットボール部に所属していました。//
She studied and practiced basketball very hard.//	彼女は勉強とバスケットボールの練習をとても熱心に行いました。//
She also practiced golf /	彼女はゴルフの練習も行いました /
after her club activities.//	部活動の後。//
She believed /	彼女は信じていました /
that she needed /	必要だと /
not only to practice golf /	ゴルフを練習することばかりでなく，/
but also to experience many things in life /	世の中のたくさんのことを経験することも /
to become a professional golfer.//	プロゴルファーになるためには。//
When she was in high school,/	高校生のときに，/
Miyazato said,/	宮里は言いました /
"I'm studying English very hard now /	「私は今，英語を一生懸命勉強しています /
to become an international golfer."//	国際的なゴルファーになるために」と。//
She tried to talk with foreign students /	彼女は留学生と話そうという努力もしました /
at her school, too.//	彼女の通っていた学校の。//
In 2003,/	2003年，/
her last year of high school,/	高校生最後の年に，/
Miyazato won a professional golf tournament /	宮里はプロのゴルフトーナメントで優勝しました /
as an amateur.//	アマチュアとして。//
As a result,/	その結果，/
her life changed dramatically.//	彼女の生活は劇的に変わりました。//
Although she was still a high school student,/	彼女はまだ高校生でしたが，/
she became a professional golfer.//	彼女はプロゴルファーになりました。//
The prize money she won in 2004 /	2004年に彼女が得た賞金は /
was over 100 million yen.//	1億円以上でした。//

In 2006,/	2006年，/
she moved to the United States /	彼女はアメリカに移住しました /
to play there.//	アメリカでプレーするために。//
In those days,/	その当時，/
her fans in Japan thought /	彼女の日本のファンたちは思いました /
she would win immediately.//	彼女はすぐに勝つだろうと。//
But against expectations,/	しかし予想に反して，/
she could not win any US tournaments /	彼女はどのアメリカのトーナメントにも勝てませんでした /
for almost four years.//	ほぼ4年間。//
At first /	最初，/
she was not in a hurry to win.//	彼女は勝ちたいとあせっていませんでした。//
But later /	しかし，後に /
she felt,/	彼女は感じるようになりました /
"I want to win /	「勝ちたい /
as soon as possible."//	できるだけ早く」と。//
The pressure and uncertainty /	プレッシャーと不安定さによって，/
changed her.	彼女は変わってしまいました。//
//During this long period,/	この長い期間，/
her parents and brothers always encouraged her.//	彼女の両親や兄たちはいつも彼女を励ましました。//
Miyazato never gave up her dream /	宮里は自分の夢を決してあきらめませんでした /
of winning overseas.//	海外で勝つという。//
However,/	しかし，/
she did not know /	彼女はわかりませんでした /
what to do.//	どうしたらよいか。//
She asked some coaches for advice.//	彼女は何人かのコーチにアドバイスを求めました。//
Thanks to their help,/	コーチたちの助けのおかげで，/
she improved /	彼女は上達しました /
technically and mentally.//	技術的にも精神的にも。//
At the end of July, 2009,/	2009年7月の終わりに，/
Miyazato won her first US tournament.//	宮里は初めてアメリカのトーナメントで優勝しました。//
She said,/	彼女は言いました /
"Now,/	「今，/
I'm at the starting line.//	私はスタートラインに立てました。//
I want to keep developing /	私は進歩し続けたい /
both as a person and as a golfer."//	人として，そしてゴルファーとして」と。//
Her challenge still continues.//	彼女の挑戦は今もなお続いています。//

○Ogasawara Islands

都道府県	①
東京～小笠原の距離	②
行くための手段	③
所要時間	④
人口	⑤



○どうやって島ができたか？

⑥

○いつできたか？→ ⑦

○大陸の一部になったことがあるか？→ ⑧

○The sea around the Ogasawara Islands　何を見ることができるか？

⑨　⑪　⑫

⑩

○unique ecosystem　固有動植物はどうやって島にたどり着くか。

⑪　⑫　⑬

どのように動植物は進化するか。それはなぜか。

⑭

Ogasawara is a group of islands about 1,000 kilometers south of central Tokyo. You can go there only by ship, and it takes twenty-five and a half hours. Still, it is part of Tokyo.

The Ogasawara Islands have a population of about 2,400 people, and they all live on the two main islands, Chichijima and Hahajima. Though the islands are far from central Tokyo, they attract about 17,000 tourists every year for their beautiful ocean and unique ecosystem.

The seas around the Ogasawara Islands are clear and blue. They are full of coral reefs, tropical fish, and sea animals. Dolphins are friendly, and they often swim together with you. Whales with their babies come from nowhere and show you their wonderful performance. You can see the undersea life with all its great beauty throughout the year.

The islands have developed a very unique ecosystem. They rose out of the ocean some forty-four to forty-eight million years ago. They have never been part of any continent.

One scientist says that the Ogasawara Islands are a "laboratory of evolution." They are a very long way from any continent. So many native animals and plants arrived by chance: by way of wind, birds, or drifting wood. On the isolated islands they have uniquely evolved in their own ways over time. For example, even a land snail has more than 100 varieties. Their food, feeding places, and resting locations influence their shape and appearance.

第１学年外国語（英語）科学習指導案

平成 28 年 12 月 9 日（金）6 限　視聴覚教室

島根県立益田高等学校
教諭　山　根　幸　久

1　単元名

Lesson 8　The Emerald Isle

Power On Communication English　I　（東京書籍）

2　単元の目標

・異文化について関心を持ち、意欲的に情報を得ようとしている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

・国についての説明を聞いたり読んだりして、概要や要点をとらえることができる。（外国語理解の能力）

・国について聞いたり読んだりした内容を、他者に伝えることができる。（外国語表現の能力）

・S+V(=be 動詞)+C(=that 節)、It is(was)+名詞(形容詞など)+that 節、関係副詞 where の使い方について理解している。（言語や文化についての知識・理解）

3　単元の評価規準

・アイルランドについての情報を意欲的に得ようとしている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）－①

・アイルランドの概要、ジャガイモ飢饉、聖パトリックデーについて説明することができる。（外国語表現の能力）－②

・アイルランドの概要、ジャガイモ飢饉、聖パトリックデーについて聞いたり読んだりしたことを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。（外国語理解の能力）－③

・S+V(=be 動詞)+C(=that 節)、It is(was)+名詞(形容詞など)+that 節、関係副詞 where を用いて、文を構成することができる。（言語や文化についての知識・理解）－④

○Can-do リスト（第１学年終了時）との関連

・読んだ英文の内容を、簡単に伝えられる。（話すこと）

・身近な話題について、４０語程度のまとまりのある英文を書くことができる。（書くこと）

・１６００語レベルの英文を読み、その内容を理解することができる。（読むこと）

4　学習の基盤

（教材観）

アイルランドについての概要、歴史、そして現在世界に広がっているアイルランドの文化について触れてある英文である。それぞれのテーマ毎に 100 語程度の文が書かれている。概要をつかみ取り、読んだ内容を他者に伝えるのに適した教材である。

（生徒観）

（指導観）

語彙の導入をしっかりとし、足りていない知識を導入しながら、グループ活動を繰り返し、自己表現に対する自信をつけさせ、クラス全体の前で読んだ内容について発表できるようにさせたい。

5　指導と評価の計画

時間	内容	評価内容
1時間目	・レッスン全体についての導入 ・語彙の導入	
2時間目	・アイルランドの概要についての読解 ・アイルランドの概要についての表現活動	①
3時間目	・アイルランドの概要についての表現活動 ・語彙の導入 ・ジャガイモ飢饉についての読解	
4時間目	・アイルランドの概要についての表現活動 ・ジャガイモ飢饉についての読解	③
5時間目	・ジャガイモ飢饉についての表現活動 ・語彙の導入 ・聖パトリックデーについての読解	
6時間目 （本時）	・アイルランドの概要、ジャガイモ飢饉についての表現活動 ・聖パトリックデーについての読解 ・聖パトリックデーについての表現活動	②
7時間目	・文法事項の学習	④
8時間目	・表現活動についてのまとめ	
定期試験	本文についての読解問題	

6　本時の学習

（1）本時のねらい

・聖パトリックデーについて本文の表現を用いて説明することができる。―②

（2）資料

・英文の書いてあるワークシート

・英作文用ワークシート

（３）本時の展開

学習活動と予想される生徒の反応（時間）	教師の支援	評価（評価方法）
○復習(10) アイルランドの概要、ジャガイモ飢饉について説明する。ペアで説明した後、数名が全体の前で説明する。 ・言う内容を忘れる。	・言うべき内容の一部を教える。	
○聖パトリックデーについての読解および定着(5) １．クラスを３つのグループに分け、３種類の英文（30 語程度）<A>、<B>、<C>を渡す。 ２．渡された英文を各自で読む。 ３.同じ英文を持っている生徒同士で内容と発音を確認する。 ・内容理解が不十分であったり、発音の仕方が分からない。	・質問を受け付け、答える。	
○違う英文を持つ生徒同士で３人組を作る。(10) １．１人の生徒が、他の２人の生徒に対して自分の読んだ英文の内容を英語で伝える。他の２人は、聞いた内容が後で自分で説明できるようにするために、メモを取る。 ・他のグループより早く活動が終わってしまう。	・他の人から聞いた内容について、自分で説明できるように練習をする。	
○他の人から聞いた内容について、英語で説明できるようにするために練習をする。(5)		
○ペアを変えながら、聖パトリックデーについて相手に対して説明する。その後、数名にクラス全体の前で発表させる。(10)		
○聖パトリックデーについての説明を、英語で書かせる。(3)		②
○聖パトリックデーについて、教科書本文に書かれていないことについて質問をし、次回までに答えを考えてくるように指示する。(2)		

（4）本時の評価

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への手立て
・聖パトリックデーについての説明を、英文で書くことができる。	・理解できる程度の英文を書き、本文に載っている内容をすべて記載している。	・本文に載っている内容の多くを記載している。	・本文に載っている内容が半分も書かれていない。

7　研究の観点

・英文の内容を他者に伝えるために、自分の与えられた課題に対して生徒が意欲的に取り組んでいるか。

・表現活動によって、生徒の学習意欲が増しているか。

Lesson 8 The Emerald Isle　<Vocabulary 3>
<Task> 発音できて、意味が分かるようにすること。

日→英	英→日	日本語	英語	tips
□ □	□ □	～によると	according to～	
□ □	□ □	伝承	tradition	速単(p.200)
□ □	□ □	キリスト教	Christianity	
□ □	□ □	その当日に	on the day itself	
□ □	□ □	行事	event	
□ □	□ □	花火	firework	
□ □	□ □	パレード	parade	
□ □	□ □	喜劇	comedy show	
□ □	□ □	路上劇場	street theater	

A

Everyone wears green, the color of the Emerald Isle. There are St. Patrick's Day parades all over the world, too, even in Japan.

B

In the week before St. Patrick's Day and on the day itself, there are many, many events—fireworks, a parade, dances, comedy shows, street theater, and more!

C

St. Patrick's Day is on March 17. It is an important Irish holiday. According to tradition, St. Patrick brought Christianity to Ireland in the fifth century.

<St. Patrick's Day>

No. ( ) Name ( )

【別添資料　１１】

第１学年外国語（英語）科学習指導案

平成 29 年 3 月 15 日（水）　４限

島根県立浜田商業高等学校　１年１組教室 39 名

島根県立益田高等学校

教諭　山　根　幸　久

１　単元名

Lesson 1　Greetings around the World

Power On Communication English　I　（東京書籍）

２　単元の目標

・あいさつについての説明を読んで、概要や要点をとらえ、内容を他者に伝えることができる。

３　単元の評価規準

・話し合いながら、各国のあいさつの仕方について英語でまとめようとする。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）－①

・各国のあいさつについて、英語で説明できる。（外国語表現の能力）－②

４　学習の基盤

・今回１時間のみのため、省略。

５　指導と評価の計画

・今回１時間のみのため、省略。

６　本時の学習

（１）本時のねらい

単元の目標と同じ

（２）資料

・ワークシート

・スライド資料

（３）本時の展開

学習活動と予想される生徒の反応（時間）	教師の支援	評価（評価方法）
○授業担当者の自己紹介と本時の目標提示（５） ・greeting について学ぶことが今回の授業	・greeting についてスライドや身振りを用いて説明する。	

の目標であることを確認する。		
○エキスパート活動（１５） ・ワークシートを読み、与えられた問について個人で解答する。 ・自己表現のポイントについて理解する。 ・同じワークシートを持つ生徒同士で内容を確認し、他の人に説明できるようにする。	・本文中の解答の根拠に線を引くように指示する。 ・発音や単語の意味が分からない場合は、伝える。	
○ジグソー活動（５） ・まとめた情報を伝え合う。		
○クロストーク活動（１５） ・自己表現のポイントを用いて、英語でどのようにそれぞれの国のあいさつの仕方を表現してよいかまとめる。 ・まとめたワークシートなしで言えるように練習する。	・英作文の仕方について指導する。	①（観察）
○発表活動（１０） ・日本人、アメリカ人ビジネスマン、フランス人になったつもりで、 ”How do you greet other people?” という質問に答える。		②（観察）

（４）本時の評価

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への手立て
・グループワークに参加し、英作文を完成させようとする。	・話し合いの中心となり、積極的に議論している。	・発言回数は少ないものの、他の人の話を聞こうとしている。	・会話に入ろうとしない。
・各国の人になったつもりで、あいさつの仕方について英語で表現できる。	・自分が担当した国、地域以外の人のあいさつの仕方について、英語で答えられる。	・自分が担当した国、地域のあいさつの仕方について、英語で答えられる。	・自分の担当した国、地域のあいさつの仕方について、英語で答えられない。

７　研究の観点

・表現活動によって、生徒の学習意欲が増しているか。

<A>

In some Asian countries, bowing is one of the *standard greetings. In Japan and Korea, people bow *in the same way. Their hands are down. In India and Thailand, people sometimes bow after putting both of their hands together.

*standard…標準的な　in the same way…同じように

Q 日本人と、タイ人のあいさつのしかたについて、それぞれ日本語でまとめよう。

<日本人>

<タイ人>

<自己表現のポイントA>

○英語は、主語（～が）＋述語動詞（～する）の語順が基本です。

例えば、「私は、6時に起きます。」ということを言うためには、私は＋起きます＋6時にの語順になるので

I get up at six.と書きます。

<B>

In *Western countries, shaking hands is a *common greeting. In the United States, shaking hands *firmly and making eye contact is important in business. Eye contact shows *trust between two people.

*Western…西洋の　common…一般的な　firmly…しっかりと　trust…信頼

Q アメリカ人ビジネスマンのあいさつのしかたについて、日本語でまとめよう。

＜自己表現のポイント B＞
○語尾が～ing となっている語は、ing を取ると動詞になります。例えば、本文中にある shaking は ing を取ると shake という動詞になり、述語動詞として使えます。

＜例＞shaking hands を用いて

I shake hands.　という文を作ることができます。

<C>

Hugging is another way to greet friends and family. However, the way of hugging is different from place to place. In Latin America, some people hug and *clap each other on the back. In France and Italy, to hug and kiss each other is *quite common.

*clap each other on the back…互いの背中を叩く　quite common…とても一般的な

Q ラテンアメリカの人とフランス人のあいさつのしかたについて、それぞれ日本語でまとめよう。

＜ラテンアメリカの人＞

＜フランス人＞

＜自己表現のポイント C＞
to +r 動詞の原形となっている語句は、to を取ると動詞になります。例えば、本文中にある to greet は to を取ると greet という動詞になり、述語動詞として使えます。

＜例＞to greet friends and family を用いて

I greet friends and family.という文を作ることができます。

あいさつの仕方について英語で書いてみよう。

タイ人	We
アメリカ人ビジネスマン	We
フランス人	We

日本人	We
ラテンアメリカの人	We